

出雲市まち・ひと・しごと創生第2期総合戦略の本編改訂について

令和4年9月に本市の最上位計画である、出雲市総合振興計画「出雲新話 2030」を策定しました。

このため、新たな出雲市総合振興計画「出雲新話 2030」をベースとする位置付けを示し、本編に追記します。

総合振興計画と「出雲市まち・ひと・しごと第2期総合戦略」は、人口減少を克服し、将来にわたり持続可能な出雲市を実現していくという目的は共通することから、第2期総合戦略との整合性を図ります。

出雲市総合振興計画「出雲新話 2030」について

計画の構成

「基本構想」と「基本計画」で構成

	内 容	計画期間
基本構想	<ul style="list-style-type: none"> ○本市の現状・課題を踏まえるとともに、目標人口を設定し、本市のめざすべきまちづくりの将来像、その実現に向けた6つの基本方策と基本的方向を示す ○各基本方策に、チャレンジする目標を設定し、各種施策を推進 ○エリア別将来像も示す 	8年（R4～R11）
基本計画	<ul style="list-style-type: none"> ○時代の変化に対応するために、前期と後期に分け、各施策に目標値（KPI）を設定し、施策を推進 ○前期期間は、「出雲市まち・ひと・しごと第2期総合戦略」の計画期間の終期を合わせ、3年とした ○推進体制：PDCAサイクルによる評価・検証を毎年度実施 	前期3年（R4～R6） 後期8年（R7～R11）

Ⅱ 第2期総合戦略に係る政策の企画・実施にあたっての基本方針

1. 出雲市総合振興計画「出雲未来図」をベースにした取組

出雲市は、平成24年度に総合振興計画「出雲未来図」(H24～R3)を策定し、持続可能な「出雲市」を築いていくための6つの基本方策のほか、4つの戦略プロジェクトを掲げ、「げんき、やさしさ、しあわせあふれる縁結びのまち 出雲」をめざした取組を行っています。

第2期総合戦略は、この総合振興計画をベースとして、特に「人」に主眼を置いて策定するものです。



<新規追加ページ>

2. 出雲市総合振興計画「出雲新話 2030」をベースにした取組

出雲市は、令和4年9月に、最上位計画である新たな総合振興計画「出雲新話 2030」(R4～R11)を策定し、2030年に向けた、まちづくりの将来像 「『出雲力』で 夢☆未来へつなげ 誰もが笑顔になれるまち」をめざし、その実現のため6つの基本方策と27のまちづくりの施策で、各種取組を行います。各基本方策には、今後8年間でチャレンジする数値目標を設定し、施策を推進します。

総合振興計画と第2期総合戦略は、人口減少を克服し、将来にわたり持続可能な出雲市を実現していくという目的は共通することから、第2期総合戦略との整合性を図ります。



まちづくりの将来像

「出雲力」で夢☆未来へつなげ 誰もが笑顔になれるまち

将来像を
実現するための

6

つの基本方策

ともに
創る



新たな価値と働く場を創造する

チャレンジ2000人
新規雇用創出(8年後)

ともに
守る



ふるさと出雲の環境を守るとともに、災害に備える

チャレンジ46%
CO₂の排出削減率(8年後)

ともに
結ぶ



あらゆる縁を結び、交流を促進する

チャレンジ1億人
交流人口(8年後)

ともに
支える



生活基盤を整え、日々の暮らしを支える

チャレンジ2.1&|年
合計特殊出生率と
健康寿命延伸(8年後)

ともに
育む



次世代を担う子どもたちや地域を支える人を守り育てる

チャレンジ85%
高校生が「出雲に夢や、魅力・誇りを覚える」と答えた割合(8年後)

ともに
楽しむ



誰もが住んで楽しく訪れて楽しい出雲をめざす

チャレンジ2200万人
生涯学習等施設利用者数(8年後)

総
合
戦
略

3. 2 「まち・ひと・しごと創生」政策5原則と新たな視点

人口減少を抑制し、将来的にわたり持続可能な地域を実現していくため、第2期総合戦略に係る政策の企画・実行にあたっては、国が掲げている「まち・ひと・しごと創生」政策5原則「自立性、将来性、地域性、総合性、結果重視」に基づき取り組むことが重要です。

さらに、国は第2期総合戦略の取組を実施するにあたり、新たな6つの視点に重点を置いて施策を推進することとしています。本市においても、こうした動きを踏まえ、施策を検討していく必要があります。

「まち・ひと・しごと創生」政策5原則

- 自立性 民間事業者等の自立に繋がるような施策に取り組む。
- 将来性 将来に向かって、構造的な問題に積極的に取り組む。
- 地域性 地域の強みや魅力を活用し、地域の実態に合った施策に取り組む。
- 総合性 多様な主体や他の地域、施策との連携を進めるなど、総合的な施策に取り組む。
- 結果重視 客観的データに基づく現状分析等により具体的な数値目標を設定して施策に取り組む。その後、政策効果を客観的な指標で評価し、必要な改善を行う。

国の第2期総合戦略における新たな視点

(1) 地方へのひと・資金の流れを強化する

- ・将来的な地方移住につながる「関係人口」の創出・拡大
- ・企業や個人による地方への寄附・投資等による地方への資金の流れの強化

(2) 新しい時代の流れを力にする

- ・Society5.0(注1)の実現に向けた技術の活用
- ・SDGs(注2)を原動力とした地方創生

(3) 人材を育て活かす

- ・地方創生の基盤をなす人材に焦点をあて、掘り起こしや育成、活躍を支援

(4) 民間と協働する

- ・NPO等の地域づくりを担う組織や企業と連携

(5) 誰もが活躍できる地域社会をつくる

- ・女性、高齢者、障がい者、外国人等誰もが居場所と役割を持ち、活躍できる地域社会を実現

(6) 地域経営の視点で取り組む

- ・地域の経済社会構造全体を俯瞰して地域をマネジメント

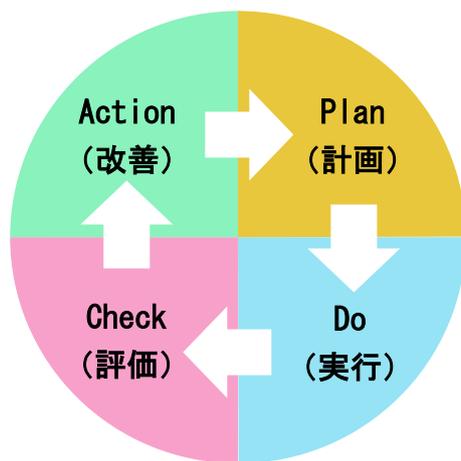
(注1) サイバー(仮想)空間とフィジカル(現実)空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会です。

(注2) 持続可能な開発目標(SDGs)とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。

4. 3. 取組体制とPDCAサイクルの確立

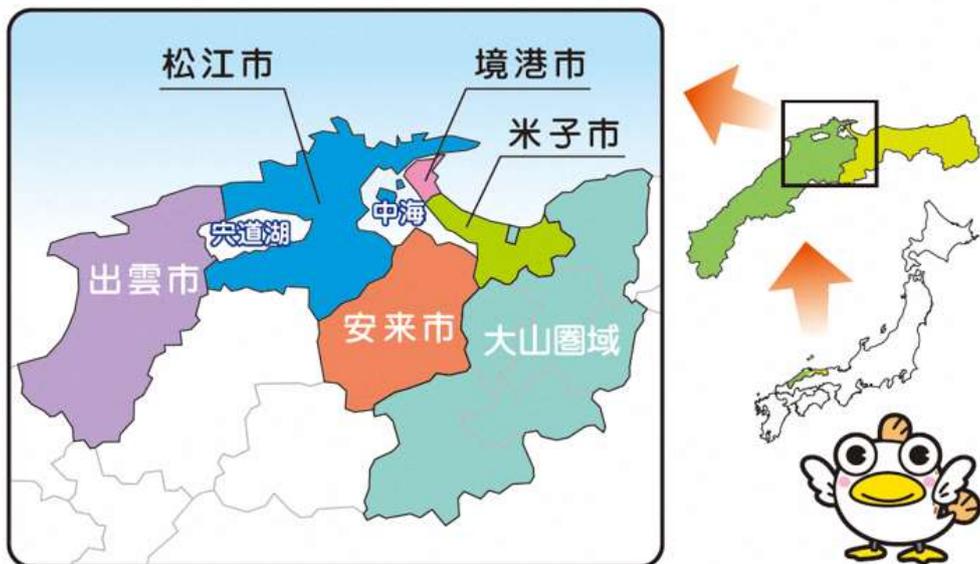
(1) 取組と検証

第2期総合戦略に係る取組の推進にあたっては、毎年度、施策の進捗状況や効果をとりとめ、外部有識者等で構成する「出雲市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」による効果検証を行い、必要に応じて総合戦略の見直しを行います。



(2) 地域間の連携推進

国、県の地域連携施策を活用するとともに、中海・宍道湖・大山圏域等近隣自治体との連携を積極的に進めながら、第2期総合戦略に係る取組を推進します。



中海・宍道湖・大山圏域市長会
イメージキャラクター「ウンパ」くん